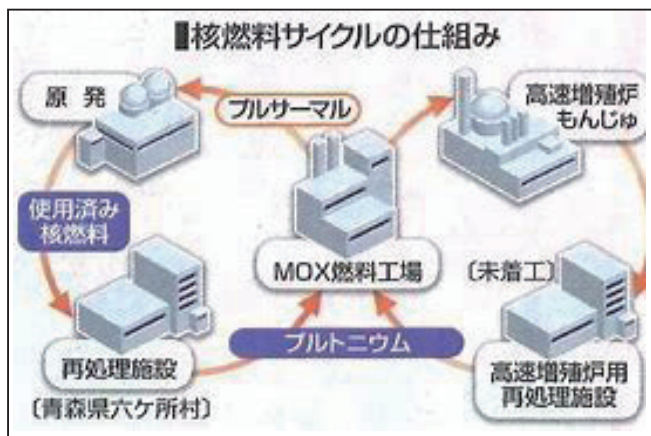


- ・使用済み核燃料は持って行き場なし！
- ・老朽原発の再稼働は、問題の先送り！

ただちに 止める

関西電力は原発を



の原発がある福井県の知事は、使用済み核燃料を県外に運び出すことを、原発の再稼働を認める条件にしてきました。しかし、関西電力は、運び出す場所の見通しを示すと約束しながら、約束を破り続けてきました。

2020年までに見通しを示すという約束も守れず、美浜など3基の老朽原発再稼働では、2023年末までに運び出す場所を確定できなければ3基の老朽原発は止める、という条件で、ようやく県の同意をもらいました。

使用済み核燃料を 県外に運び出す約束も守れず 2023年末にまた期限

関西電力は、運転開始から44年以上たち、東日本大震災から10年間止まったままだった美浜原発3号機を再稼働させました。この再稼働によって、関西電力が稼働させている原発は合計5基になりました。

原発で使った核燃料は、原発の中にあるプールで保管されますが、このプールが満杯になる前に、どこかに運び出さなければなりません。もともとは、再処理してもう一度燃料として使うために、青森県の六ヶ所村に運び出す予定でしたが、六ヶ所村の再処理施設が全く動かないので、再処理施設のプールが、使用済み核燃料で満杯になってしまい、これ以上運び込むことができなくなりました。

使用済み核燃料は、人が近づけないほどの放射能を出すので厳重に保管しなければなりません。関西電力の美浜・高浜・大飯の三つ

使用済み核燃料をこれ以上増やすな

青森県むつ市につくられている、使用済み核燃料を保管するための「中間貯蔵施設」（原子力規制委員会で審査中）には、東京電力と日本原電の使用済み核燃料が運び込まれます。ここを、関西電力も使えるようにしようという案も出されましたが、地元のむつ市が、「むつ市は核のゴミ捨て場ではない」と猛反発。関西電力の使用済み核燃料は、行き場を失いました。

使用済み核燃料の放射能は、人が近寄ったら死んでしまうほど強く、これを大量に貯蔵する設備は、場所を探すのも難しく、簡単にはつくれません。関西電力の原発の中のプールは、すでに、約7割が埋まっています。無理やり再稼働させても、プールがいっぱいになったら、使用済み核燃料の持って行き場がなくなり、原発は、それ以上動かすことができないのです。

<裏面に続く>

全造船関東地協労働組合
よこはまシティユニオン

横浜市鶴見区豊岡町 20-9-505
TEL 045-575-1948
yuniyoko.sakura.ne.jp

使用済み核燃料は、 資産ではなく、負の遺産

六ヶ所村の使用済み核燃料再処理工場は、全く動く見込みがありません。再処理した燃料を使うはずだった「もんじゅ」は、廃炉になりました。高レベル廃棄物の最終処分場は場所も決められません。普通に考えれば、原発の使用済み燃料は、処分にどれだけお金がかかるかわからない莫大な「負の遺産」です。ところが、電力会社の会計上は、「資産」として扱われます。再処理してもう一度電気をつくる燃料として使えば、「利益」を生み出すという理屈です。しかし、そんなことは、もう不可能です。

国や大手電気会社は、核燃料サイクル（再処理）をやめ、使用済み核燃料を「資産」から切り離し、負の遺産として処理していかなければなりません。それだけでも、何万年単位の想像もつかない年月と資金と労力が必要です。

市民の命と健康、財産を食いつぶす負の遺産「使用済み核燃料」をこれ以上増やさないためにも、原発はすぐ止めるべきです。

【組合員 N】



■ 故長尾さんの闘いを胸に

よこはまシティユニオンの組合員だった長尾光明さん（故人）は福島第一原発で働き、被ばくが原因で退職後に多発性骨髄腫（血液のガン）を発症し労災認定されました。損害賠償を求めて東京電力を相手に裁判を起こしましたが、東電は労災認定はおろか病名すら否定。裁判所も長尾さんの請求を棄却しました（最高裁 2010 年 4 月）。

■ 原発で働く労働者と共に

原発は電力会社を元請とした 4～8 次の下請会社で稼働しています。3.11 以降、多くの労働者が福島第一原発の収束作業に関わり、被ばくを余儀なくされています。東電福島第一原発の収束・廃炉作業や九電玄海原発の定期検査に従事し、被ばくが原因で白血病になったあらかぶさん（40 代男性）は 2016 年 11 月 22 日に東京電力と九州電力を相手に損害賠償を求めて提訴し闘っています。ぜひ多くの皆さまのご支援をお願いします。

■ 職場の問題、いつでもご相談を！

東日本大震災や原発事故を忘れないため、私たちが毎月 11 日に街頭宣伝活動を始めて 11 年目になります。これからも、何ができるのかを一緒に考えたいと思います。「福島どころじゃない」「自分の仕事と生活が大変」という方もいるでしょう。そんなあなたこそ、あきらめる前に一度ぜひ職場の問題をユニオンに寄せてください。一緒に解決しましょう！